

**答** 想定される南海トラフ巨大地震では、三坂地区で平均20m以上の津波高が示されており、集落付近には一次避難地程度しかありません。現状では、三坂地区の広域避難地として差田グラウンドを指定し、防災倉庫や食料等を備蓄しています。長期的な避難環境を確保・維持するためにも、広域避難地としての差田グラウンドの充実や伊豆下田カントリークラブなどの民間施設の活用も検討します。

**問 国民健康保険税の滞納を減らしてほしい**

**答** 平成24年度において、9月から11月までの間、静岡県職員2人を町徴税吏員に任命し滞納対策に取り組むとともに、11月及び12月を滞納整理強化月間とし、適正な滞納処分を遂行します。

**問 社会福祉協議会に相談室が欲しい**

**答** 当面は現施設で業務に取り組んでもらい、中長期的な計画の中で検討します。

**問 中央公民館の調理室・障がい者用トイレ・検診室設置等への設備投資は何故か。耐震補強を施して利用することが必要である**

**答** 中央公民館は、平成21年発生の駿河湾沖地震による旧役場庁舎の大きな被害により新庁舎建設を早めたこととあわせ、人口減少社会の到来、老朽化に伴う耐震補強及び今後の維持管理等を総合的に検討した結果、新庁舎にその機能を集中させました。(現在は、撤去しました。)

**問 地区要望に対する回答が遅いので、採択されない場合次のステップに進む検討に支障を来している**

**答** 区の要望に対し回答が遅れ、迷惑をかけたことについてお詫びいたします。3年前からは各課等の対応を統一し、区長から要請書の提出があった場合、1ヶ月以内に回答するよう対応しています。

**問 高台への避難路の整備・非常用食料品・備蓄倉庫の設置に具体的回答がない**

**答** 町では、各自主防災会による避難路の整備をはじめとする地域の実情に即した防災対策について、補助制度を創設し、その支援を行っており是非活用して下さい。この助成制度については、広報紙・ホームページのほか、区長会や夏季対策協議会でも紹介、新聞報道でも大きく掲載されています。

**問 台風等自然災害・美化運動で出た倒木・海藻・雑草等の処分方法や場所の明確化を望む**

**答** 台風等の自然災害で発生した倒木につきましては、差田地区にあります町有地を仮置場として受入れを行っています。また、雑草・海藻等につきましては、地元での処理をお願いしています。

**問 町では、弓ヶ浜・五十鈴浜のみに清掃費用を補助しているが、平等に対応して欲しい**

**答** 町の海水浴場として指定されております

弓ヶ浜・五十鈴浜への補助は両海水浴場の安全面を確保するため、ライフセーバー、監視船を雇い上げるための経費として行っているものであり、清掃費用としての補助ではありません。清掃に対する費用につきましては、基本的には各区にお願いしています。

**問 夏のキャンプ禁止区域についてキャンパーの指導・取締りの相談窓口の明確化を求める**

**答** 夏のキャンプ禁止区域におけるキャンパーへの指導・取締りにつきましては、産業観光課が相談窓口となり、警察等の協力の下パトロールを実施しています。

**問 職員の昇進試験を是非実施してもらいたい**

**答** 昇進につきましては、日々の業務を通じて、管理者が職員の能力・経験等を総合的に評価した上で対応しており、現在のところ、昇進試験の導入の予定はありません。

**問 天神原の有効活用**

**答** 天神原山つつじ公園を軸とし、春だけではなく、夏から秋に向けた有効活用の手法などを検討したいと考えています。

**問 地震・津波の風評被害対策**

**答** 本年も弓ヶ浜で実施されますOWS国際大会を含む3つのレースを核に誘客に努めているところです。特に、今年はレース当日会場周辺を盛り上げるイベントの並列開

催も企画し、海辺を元気にする施策を実施してまいりました。また、観光協会がジオパークビジターセンターとして開設しました、あいあい岬売店の支援を通じて、観光客の増加につなげていければと考えています。

**問 五十鈴浜の砂浜減少対策**

**答** 下田土木事務所が管理する妻良漁港内の五十鈴浜の砂減少対策については、専門的知見に基づく調査等が必要と考えますので、地区との協議・調整を図りながら、調査の実施について漁港管理者(県)に働きかけていきたいと考えています。

**問 有害鳥獣対策(鹿・猪)捕獲檻の個人負担の軽減**

**答** 現在、町所有の捕獲檻が40基ありますので、これを有効に活用して、個人負担の軽減を図ってまいりたいと考えています。なお、区が捕獲檻を購入する場合は、従来どおり半額補助行っておりますのでご利用ください。

**問 温泉の無駄のない利用をしてほしい**

**答** 下賀茂温泉は、一部を除いて、そのほとんどが旅館やホテルなど入浴用に利用されており、余剰温泉は廃棄されているのが現状です。現在、環境省が下賀茂温泉地区において実施している実証研究の一環として、温泉の無駄のない利用の方策として温泉の集中管理方式について検討しており、その結果が期待されているところです。その結